

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101702
法人名	生活協同組合コープ自然派徳島
事業所名	グループホームそのせ
所在地	徳島県徳島市八万町下長谷259-1 (電話) 088-667-1338

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 7月 17日

【情報提供票より】(平成19年 6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 11 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	8.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000~30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	77 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人徳島往診クリニック , 医療法人コスモス会 , 戸田歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の運営理念は、地域密着型サービスの役割りを認識された独自の理念となっており、管理者は、利用者との関わりの中で何が大切か、重点課題を決め職員とよく話し合い、理念の共有と日常のケアに反映させる積極的な取り組みがなされている。共用空間は、木材を多用したログハウス風に設けられ、要所に絵画や使い込まれた家具等を配置し、台所で調理する音や匂いなど家庭的で居心地のよい生活空間となっていた。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長や管理者は評価の意義についてよく理解されており、改善課題について職員とよく話し合い、「改善に関する報告書」の提示もあった。理念の掲示や記録の工夫、書式の整備や年間の研修計画等は速やかに改善され、申し送り機能の充実に関しては、職員の意識が変わることによって伝えもれや聞きもれがなくなり、利用者の楽しみごとの支援では、「利用者本位」に考えることが職員の習慣となった報告がされており、意識改善の重要性が示されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、前年度の評価を踏まえたうえで今回の自己評価に取り組みされており、地域密着型サービスの制度や理念、サービスの評価項目等をよく勉強されており、各項目の内容はわかりやすく整理されていた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催されており、事業所の基本情報や外部評価の取り組み状況、サービス内容等が報告されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の事業所での暮らしぶりやエピソード等が盛込まれた「そのせ便り」を発行し、毎月家族に伝えられ、必要に応じた随時の対応もなされている。家族が意見や要望等を気軽に表せるよう、口頭やホーム便り等で繰り返し伝えている。外部の相談窓口に関する情報は、契約時のみ説明されている。しかし、契約時のみでなく今後は繰り返し伝えられ、家族の意見や要望等を運営に反映させる取り組みが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は、自治会に入会し、秋祭りや清掃、草刈等の地域行事にも参加され、散歩をかねての空き缶拾いは地元の人たちに喜ばれている。自治会の掲示板にホームの「福祉だより」が掲示されるようになり、地域の人たちに事業所の取り組みや実状を知ってもらうなど、地域や住民とのつながりを重視した取り組みとなっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の尊厳を守り、一人ひとりの想いに寄り添いながらその人らしく過せるよう支援する」とした従来の理念に、「人と人、人と街、人と自然との関わり」を重視した部分が新たに追加され、地域密着型サービスの果たすべき役割を認識されたホーム独自の理念の内容となっていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は必要に応じて個々の職員との対話も取り入れ、利用者との関わりの中で何が大切か、重点課題を決めて話し合われている。そのため、全職員に理念が浸透し、日々のサービス現場に反映する等、積極的な取り組みがなされている。	○	新しく追加された理念の内容について十分に話し合い共有されているが、職員間でさらに共通認識を深められるためにも、継続的な取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に入会し、秋祭りや清掃、草刈等、地域行事に参加されており、散歩をかねての町内の空き缶拾いは地元の人たちに喜ばれている。また、自治会の掲示板に事業所の「福祉だより」が掲示できるようになり、地域の人たちに事業所の取り組みを知ってもらうなど、地域、住民とのつながりを重視した取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価で見出された課題については早速改善に取り組み、訪問調査当日に改善の状況報告書の提示があった。施設長、管理者は評価の意義についてよく理解されており、職員と話し合い、質の確保、向上に努めている。	○	申し送り等の情報伝達は、意識のもち方、確認サイン等によって機能しているが、申し送りの持ち方や職場内研修等についてさらに検討していきたいとの前向きな意向を示されており、今後の取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、運営の実際、サービス評価等、事業所が取り組んでいる状況について報告はされているが、参加メンバーからの質問、意見等が出されるまでには至っていない。	○	会議では、利用者やケアの実状、事業所の課題等を積極的に報告し、課題改善に向けた意見や要望を伝えてもらうなど、双方向的な会議となるよう、主体的な取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、制度改正時の問い合わせや事故報告等、電話や書類のやり取りは行なわれているが、運営、サービス上の課題等を伝え相談するまでには至っていない。	○	折に触れ、市町村担当者に事業所の考えや実態を報告するなど、共にサービスの質の向上に取り組まれない。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードが盛り込まれた「そのせ便り」を発行し、毎月家族に伝えられ、体調や状態の変化時には、その都度、電話連絡を行なうなど随時の対応もされている。金銭管理は、家族や本人の希望、能力等個々に合わせた支援がなされ、金銭出納帳を整備し、報告も行なわれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、要望、苦情等を気軽に表せるように、口頭や「そのせ便り」等で繰り返し伝えたり、家族会では家族同士で話し合える機会を設けるなど、工夫した取り組みがなされている。しかし、外部にある相談窓口に関しては契約時に説明しているが、繰り返し伝えることは行なっていない。	○	運営推進会議や市町村の相談窓口等外部の人に、意見や苦情を表せる機会や場があることを繰り返し伝えられ、家族の意見を事業所運営に反映させる取り組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少なく、利用者にとっては馴染みの職員の支援が受けられている。今回、看護職員が一名配置され、早速「そのせ便り」でも紹介されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に熱意をもたれ、各自の段階に応じた研修計画を立てるなど、全職員に対して学習の機会を確保している。研修会報告は、全体ミーティングで行なわれ、報告書等も全職員が閲覧できるなど、研修会の内容が共有できる仕組みとなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所では、認知症ケアの勉強会を隔月で開催しており、近隣の事業所や同業者からの参加も多い。同業者同士の相互訪問等の活動も検討中であり、良質のケアをめざした取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用は、家族の事業所訪問から始まることが多いが、本人が安心し納得して頂くために、入居前の見学等を進めるなど、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう、家族と相談しながら利用時の調整が行なわれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「言葉にならない気持ちに寄り添う」が今年度のケア目標となっており、職員は、利用者一人ひとりに対する理解や共感に努めながら、利用者を人生の先輩として敬い、学んだり、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いを言葉に表せない利用者に対しては、家族からの情報を参考にしたり、今年のケア目標「言葉にならない気持ちに寄り添う」を念頭に、本人の立場を考慮しながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者との対話のなかで、利用者の好みや生活歴、特性等を把握し、日々本人と接する職員(ケア担当者等)のアセスメントをもとにカンファレンスで話し合うなど、個々の介護計画に反映している。	○	管理者は家族の意見をもっと反映させたいとの前向きな意向を示されていた。今後のさらなる取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりに担当者が決められ、日頃、利用者との関わりの中での気づきや発見、エピソード等が記録に残され、見直し時の情報に活かされている。また、心身の状態変化や対応が難しくなった場合にはカンファレンスを行ない、実状に即した柔軟な見直しと新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、医療連携体制の活用を検討しており、すでに看護職員を配置し、利用者やご家族の状況に応じて通院等の支援も行なわれ、事業所の機能を活かした柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医の医療も受けられ、受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応されている。事業所の協力医の往診等も受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、重度化や終末期に向け、対応する方向で考えられており、利用者の心身状態が変化するたびに、本人や家族の気持ちに配慮しながら、重度化に伴う対応について話し合っている。	○	重度化に備えて事業所の対応指針を早急に定められ、家族・医師・看護師を交えた話し合いや、全職員の終末期ケアに対する共通認識、スキルの向上等、早期の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念にも示されているが、利用者の尊厳を守ることが重視され、利用者一人ひとりのあるがままの姿を尊重し、誇り、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に全職員が取り組み、個人情報保護の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの体調やその日、その時の気持ちを尊重し、ゆったりと柔軟な対応がなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園では利用者が育てた夏野菜(茄子、トマト、玉葱等)がなっており、食卓にあがることも多い。食事の献立、配膳、下膳等にも利用者個々の力が発揮され、食事は職員も同じものを一緒に楽しみながら、一人ひとりのペースを大切に支援が行なわれていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をしたい日や時間、手順等は利用者の希望にそうよう支援され、入浴を嫌がる人には職員と一緒に入るなど安心感に配慮した取り組みがなされている。また、入浴支援は、利用者と1対1でゆっくりと会話ができるため、大切なコミュニケーションの場としても活用されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自治会の清掃活動に積極的に参加される利用者、得意とする畑の耕し方や野菜の作り方を職員に伝授される利用者、グループホームと隣接のデイサービスセンターの生け花係を担当される元お花の先生もおられ、職員は、利用者の生活力を活かし、自発的に役割を楽しめる支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、数回、散歩に出られる利用者がおられるが、その時々によりさげなく同行したり事前に職員から誘うこともあるなど、柔軟な対応がなされている。車や車椅子を利用しての全員でのお出かけ(花見等)は、利用者の楽しみの1つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は掛けていない。過去に、職員の見守りをくぐり外出した利用者がいたため、現在ではチャイムを設置し、頻りに外に出られる利用者の気配に注意しながら職員間の連携プレーを徹底するなど、鍵をかけないケアが実践されている。また、近隣の人たちの見守りや声かけ支援も得られ、利用者の安全に配慮した取り組みがなされている。	○	夕暮れ時に外に出たがる利用者への対応は、職員も手薄となり、苦慮するところである。今まで以上に利用者の気分や気配をより早く察知し、職員間の協力と連携プレー、周辺地域の住民の方々にもさらにご協力を頂くなど、より一層の取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、利用者と共に年2回、避難訓練を行なっている。また、消火器の使い方や避難経路の確認等は消防署の協力を得て行なわれ、非常用の食料や飲料水、トイレ、レインコート、カセットコンロ等の備蓄もある。地域自治会の協力体制も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの好きなものやいつも残すもの、一日の摂取量や水分量を大まかに把握しており、食が進まない利用者には補食等を工夫するなど、一人ひとりの状態や体調に配慮された支援がなされている。栄養に関する専門的な観点からのチェックは十分とは言えない。	○	栄養の専門的観点からのチェックに関しては、施設長が保健師資格を有するので、早急に栄養のバランス確認を行なわれるなど、利用者の健康に配慮された取り組みが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホームは地域に馴染み、のどかなたたずまいを見せ、共用空間の要所には使い込まれた昔ながらの家具等が配置されている。中庭に広がるデッキには朝顔や草花が植えられ、季節を感じながらゆったりと過せる工夫がされていた。また、台所では調理する音、煮炊きする匂い等が家庭での生活を感じさせ、落ちついた居心地よい空間となっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、できるだけ自宅で使用されていた生活用品を持ち込むなど、利用者にとって馴染深い居室づくりがなされていた。家具の配置や布団の向きなどは、利用者の生活習慣や力量に合わせて本人と相談しながら行い、居心地よく過せるよう支援がなされていた。		